



# 「道徳の時間」学習指導案

指導者 岡山 晴美

- 1 日時 平成24年 9月27日(木) 第5校時
- 2 学年 第4学年2組 男子11名 女子11名 計22名
- 3 主題名 信じ合える友達 中心項目 2-(3) 〈信頼・友情, 助け合い〉  
関連項目 2-(2) 〈思いやり・親切〉
- 4 ねらい 村人の話を聞いて、涙を流したチャオヨウの気持ちを考えることを通して、涙の意味に気付  
き、友達と互いに信じ合い、助け合おうとする心情を育てる。
- 5 資料名 もどらない友 (出典:「みんなのどうとく 4ねん」 学習研究社)

## 6 主題設定の理由

- 人間はお互いに信頼し合って生きている。友達関係においても、その根底には「信頼」という基礎がなくては成立しない。「信頼」は、お互いに相手のことをよく知っていくことで、その絆を深めていくものである。

この時期の児童は、気の合う友達同士で仲間を作る傾向があり、自分たちの世界を保有し、楽しもうとする。その反面、グループが固定化し、それ以外の友達に目を向けようとする気持ちが薄れてくる。そこで、様々な友達と関わりをもつ中で、損得・利害を超えて相手の立場や気持ちを考えて行動できる大切さや、真の友情は相手信じ、自分でつくり出していくものであるということに気付かせたいと考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、友達のよさや頑張りを素直に認め、みんなと仲良くしたいという思いを持っている。このことは、事前アンケートの「自分は、学級の友達のよいところを素直に認めている。」の項目に対して86%、「自分は、友達のことを信じている。」の項目に対して100%、「学級の友達は、助け合っている。」の項目に対して95%の肯定的な回答をしていることから裏付けられる。

しかし、児童の様子を見てみると、自分の思いばかりを優先して、友達の気持ちを考えた行動ができないことがある。また、友達に嫌われたくないという思いから、言いたいことも言えず、我慢をするなど、自分の友達関係に自信が持てない様子も見られる。このことは、事前アンケートの「学級の友達は、自分のよいところを認めてくれている。」の項目に対して肯定的評価が64%とかなり低いことや、「自分は、友達のことを信じている。」の項目は100%の肯定的評価に対して「友達は、自分のことを信じてくれている」の項目に対しては86%と肯定的評価が低くなっていることにも表れている。このように、自分は友達のよさを認め信じているが、友達は自分のよさを認め信じてくれていると確信が持てない不安定な状況が感じられる。

児童の中には、自己中心的で、自分の考えを強く主張するあまり、円滑な友達関係を築きにくい子もいる。

- 本資料は、予定の期日が過ぎても、もどらない友ハーハオに、極限状態の中で疑心と恨みをつのらせていくチャオヨウの心を描写したものである。ハーハオが戻れなかったわけを知って泣き続けるチャオヨウの気持ちを考えさせ、信じ合うことの大切さを感じさせることのできる資料である。

導入では、あらかじめとったアンケート結果をもとに、児童が求める友達像を提示しながら、資料へつなげていく。展開前段では、極限状態に置かれた時のチャオヨウの弱い心に共感させる。中心発問では、ワークシートを活用して、チャオヨウが流した涙の意味を深く考えさせ、ねらいに迫りたい。終末では、相手に期待するのではなく、自分が相手を信じぬくことの大切さに気づかせたい。

学習後には、帰りの会で、友達を信じてよかったことなどを伝え合い、信じ合うことのよさを実感させていく。

「伝え合う」については、考えを出し合う中で、類似点や相違点に気付き、自分の考えを振り返るという段階である。本時は、ワークシートに書くことにより、チャオヨウが流した涙の意味について、考えを広げさせる。

7 準備物 場面絵, ワークシート, アンケートの結果 (掲示物)

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)改善点(◎)
導入	1 児童が求める友達像を発表し合う。	○自分がほしいと思う友達について、みんなに紹介しましょう。	○あらかじめとったアンケートを掲示し、資料へつなげる。
展開	2 資料「もどらない友」を聞き、チャオヨウの気持ちを考える。	○たき木も食べ物もなく、けもの声におびえながら、チャオヨウは、どんな気持ちでいたのでしょうか。 ・ハーハオは逃げたんだ。ひどい。 ・もう自分は死んでしまうかもしれない。 ・自分が行ったら、こんなことにはならなかったな。 ・きっとハーハオは戻ってくる。	○極限状態に置かれた時、不安、不信、恨み、憎しみといった弱い心に気付かせる。
	3 村人の話を聞いて、涙を流したチャオヨウの気持ちを考える。	◎村人の話を聞いて、泣き続けていた時、チャオヨウはどんなことを考えていたでしょう。 ・ハーハオは死んでしまった。かわいそうだな。 ・ハーハオ、ぼくのために命がけで食べ物を届けてくれてありがとう。 ・ハーハオ、疑ったり憎んだりしてごめん。ぼくは、どうしたらいいんだ。取り返しが見つからないことをしてしまった。 ・ハーハオ、ぼくを信じ続けてくれてありがとう。 ・ハーハオはぼくを信じてくれていた。ぼくもハーハオを信じなくてはいけなかった。  [ 補助発問 ] ●チャオヨウは友達同士で何が大切だと気付いたのでしょうか。 ・信じること。 ・友達を大切にすること。 ・信じ合うこと。 ・相手を思うこと。	◎ワークシートに書くことにより、チャオヨウが流した涙の意味について、考えを広げさせる。 ○チャオヨウの涙には、「友を失った悲しみ」「友への感謝」「友を疑い、恨んだことへの後悔」があることをとらえさせる。 ○損得ではなく、お互いに相手のためを思う信頼関係のよさに気付かせる。 ○「信じる」ことが互いの心をつなぐものであることに気付かせる。
終末	4 自分の生活を振り返る。	○友達を信じてよかったと思ったことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。 ・私の言うことをみんなが信じてくれなかったとき、○○さんは信じてくれてうれしかった。 ・ぼくは、友達とけんかをしたことがあるけれど、信じていたからこそ、謝ったら許してくれた。	○把握した価値に照らし合わせ、これまでの生活の中で自分自身を具体的に振り返らせる。 ★今までの自分をしっかりと見つめ、友達と信じ合い、助け合おうとする気持ちを持てたか。
	5 教師の説話を聞く。		

成果と課題

本教材は、実生活とかけ離れていて考えにくい所もあるので、より児童の思考に沿った発問が必要だった。キーワード「ありがとう」などを掘り下げじっくり考えを出させることで、より価値にせまれたと思う。導入の工夫などもしていきたい。

もどらない友

第一場面

二人で相談  
している絵

- ・冬ごもり。
- ・ハーハオは食べ物を買  
いに。
- ・チャオヨウは金をほる。

第三場面

チャオヨウが  
ハーハオのこ  
とを考えてい  
る絵

にげたハーハ  
オをうらんだ

- ・ハーハオにうらざられた。
- ・ハーハオがゆるせない。
- ・死にたくない。

チャオヨウ

- ・ハーハオ、ごめん。
- ・友達をうたがうなんて、ぼくは最  
低だ。
- ・ぼくは、どうしたらいいんだ。
- ・信じなくてはいけなかった。
- ・信じてくれてありがとう。

第四場面  
チャオヨウがハーハ  
オのことを思って涙  
を流している絵

相手のことを  
最後まで信じる

- ・約束は守るよ。
- ・チャオヨウが待っているから、  
食べ物を絶対にとどけなくては。
- ・チャオヨウはぼくを信じて待っ  
てくれている。

ハーハオ

10 ワークシート

もどらない友

名前 )

村人の話を聞いて泣き続けていた時、チャオヨウはどんなことを考え  
ていたでしょう。



今日の道とくらの学習で、気づいたことや考えたことを書きましよう。

Blank writing area with vertical lines for notes.